

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名 沖縄県 伊江村

事業名称 H21 “情報・人・産業” が織りなす癒しと安心の民泊交流モデル
 =民泊事業の活用と地域コミュニティを中心とした観光促進及び高齢者の安心安全を確保する=
 H20 (繰) 古今東西 ICT イチャリパチョーダーモデル事業

1. 事業実施概要

平成21年度は、平成19年度に構築した伊江村コミュニティプラットフォーム（以下「SNS」という。）及び、平成20年度に構築したECサイト、ゆんたくBOXなどの各種サービスを管理する地域支援センターシステムを構築する。また、平成20年度に構築した高齢者支援システムの対象者を広げて、ゆんたくBOXとし、操作性等の改善を行なった。

これまで構築したシステムを連携させると共に、中核となる地域支援センターを本稼働させ、地域密着型サービスを行い、村民のサービス向上を目指す。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
安心・安全・満足度向上	75%確保	83.4%	○	SNS利用者やゆんたくBOX利用者へのアンケート調査
雇用増	10名 (累計)	10名	○	システム構築又は使用に関連し雇用された人数
地域支援センター登録者数	100名	300名	○	SNS会員登録者及びゆんたくBOX登録者数
ICT利活用者数	400名	521名	○	村内ADSL契約者数
SNS登録者数	800名	250名	△	SNSに登録した人数
ECサイトアクセス数	100,000件	14,400件	×	ECサイトにアクセスした件数をカウント
ゆんたくBOX利用件数	30,000件	30,000件	○	ゆんたくBOXを使用して他の人とアクセスした回数
支援センター利用件数	2,000件	2,200件	○	支援センターへの電話・FAX・メール依頼・ゆん

				たくBOXなど利用件数
--	--	--	--	-------------

3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

民泊事業で訪れる修学旅行生に対する取り組みを当初想定していたが、個人情報保護の観点から、学校側からの協力を得ることが難しく、一歩ずつ別の取り組みにより認知度を高めてきた。今後も継続的な取り組みを行なっていきたい。

<委託業務説明書>

1 平成21年度事業実施において明らかとなった課題

公共事業により、豊かさをもたらしてきた本村は、1990年代後半から、公共事業が減少に転じ、年を追うごとに失業する者や出稼ぎで島を出て行く者が相次ぎ、完全失業率が県内トップクラスとなった。過疎地域特有の少子高齢化については、本村でも、例外ではなく、2000年代に入って、少子高齢化率が急速に上昇している。こうした問題は、伊江村のみならず、過疎になりつつある農山漁村の地方自治体に共通する課題である。

伊江村における課題として

- ①少子高齢化を背景とした過疎化問題
- ②働き盛りの若年層（15歳以上30歳未満）の県内トップ失業率の解決
- ③高齢者（高齢者夫婦・ひとり暮らし高齢者世帯）の安否確認など福祉拡充である。

これまでの取り組みとして、村内にICT企業「イーコム」が設立され、村内雇用もあり、若干ではあるが新しい産業の創設は活性化の兆しが見え始めている。

村内のICT機器の維持管理業務を行うほか、この事業で構築する伊江村SNSやECサイトの管理業務、さらに今後の村全体の介護福祉にICTを利活用した新しい福祉業務を兼ねた地域支援センターとして活動を開始しており徐々にではあるが認知度も高まっている。

また、イーコム設立に刺激を受け、本村にICTの土壌があるとして、アプリケーション開発に力を入れて取り組んでいる「NANAROQ株式会社伊江島研究所（通称：イエラボ）」も設立され、意欲的に活動を始めている。

地域支援センターの活動の中で、村民からの声として事業終了後のコスト負担についての意見が出てきている。サービスの必要性はあるが、コスト負担について枠組みの検討が必要である。

また、SNS・ECサイトそれぞれのシステムの利用者が少ないことも課題である。現在、村内イベントの積極的活用や、SEO対策、システムの運用部分も含めた様々な対策を行なっている。

2 自律的・継続的運営の見込み

地域ICT利活用モデル構築事業が終了後（平成22年度以降）、自立的・継続的運営の見込みに関し、上述の課題を克服するためには、地域住民が運営に参画することが必要だと考えている。そこで、本課題の克服に向けて、本事業内容に関して、村民へ理解を求めると共に、地域一体型のサービスが展開できるよう取り組んでいる。

村民へのICTサービスの提供として、保守サービス・PC及び関連機器の販売業務を核として、各システムの特徴を活かした複合的な取り組みを行う。

また、SNS会員の増加及びECサイトの活用を更に充実させ、伊江村の情報に関

心を持ったファンが増えると、そこには新しいビジネスの創出も見込めると予想している。

ゆんたくBOXは、新しい福祉タイプのモデルとして、全国と同じ悩みを持つ地域での普及が期待できる。この取り組みは、地域密着型福祉モデルとして、その構築のアドバイザー（地場企業）として収入も見込める。

地域支援センターの雇用は地元で行い、そのセンター要員のコストは、村内の利用者により平等に負担しあうことで、利益追求型ではなく、安価な地域密着型のサービスが可能となると考えている。

以上のことから、村内における地域住民の理解と協力が重要な条件と捉え、自立・継続運用が可能となるよう十分な説明とニーズ調査を行いながらサービス展開を行っていく。

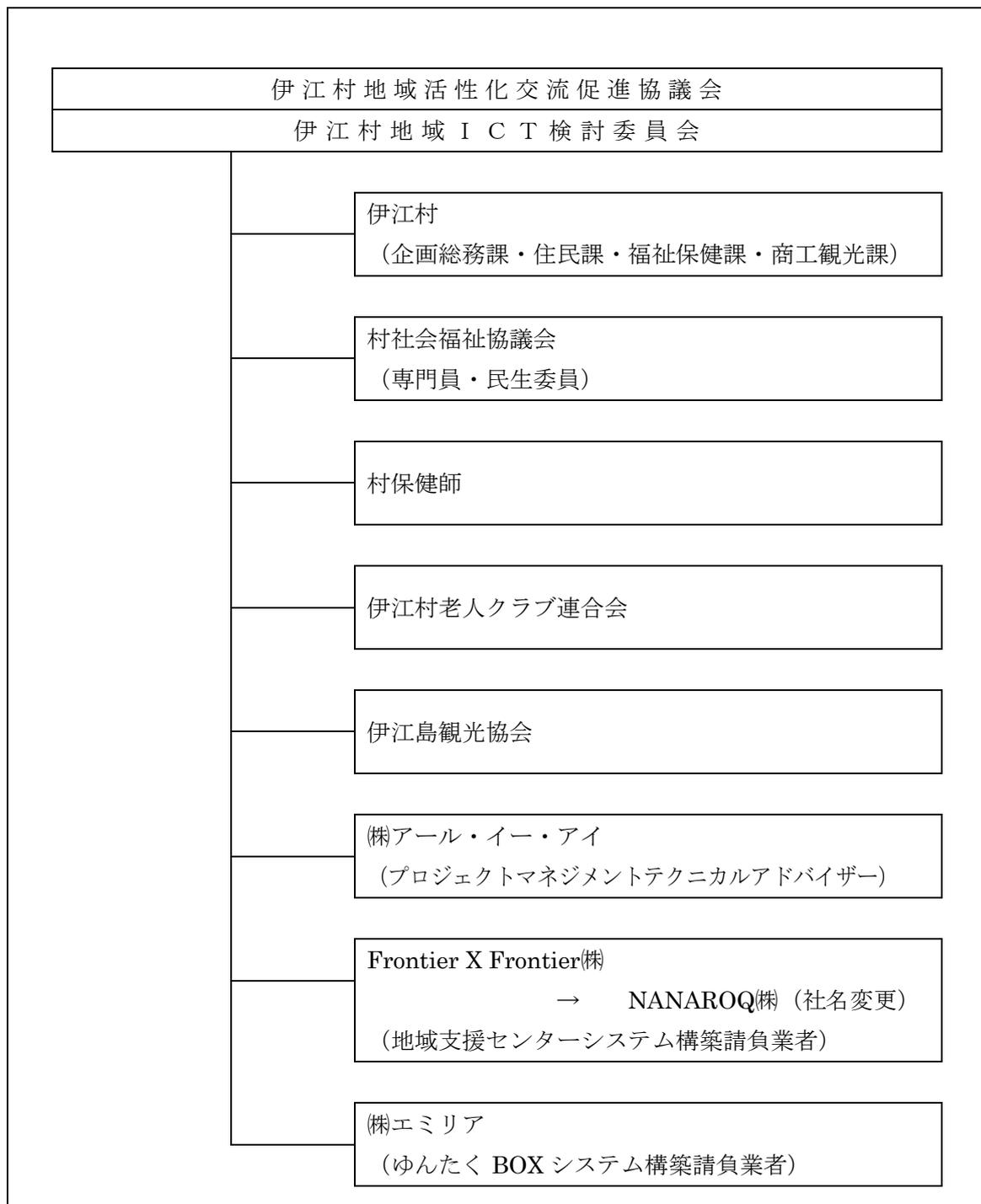
3 今後の展開方針

- ・ SNS会員増加を目標に集中的に人員を投資する。
(伊江村の情報が共有できる使い勝手のよいシステムとする。)
- ・ ECサイトの有効活用
(ショッピングモールへの出店の誘致と販売力強化策を実施する。)
- ・ ゆんたくBOXシステムの充実と全国展開
(新しい福祉タイプのモデルとして確立し、全国普及を視野に取り組む。)
- ・ 地域密着型地域支援センターサービスの充実と規模拡大を図る。
(地域に根ざしたより良いサービスを展開する。)

上記を総合的に推進すると共に、連携させることで、新たなサービスを創出していく。

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

NO	氏名・団体名	役 割
1	伊江村地域活性化 交流促進協議会	本プロジェクトの最終決定機関 会長：伊江村長 大城勝正
2	伊江村地域 I C T 検討委員会	設計書の精査やシステムの利便性及び運営方法 などについて検討、調整を行う。 委員長：伊江村副村長 島袋秀幸
3	伊江村	観光や福祉に関係する専門の課の立場から、本プ ロジェクトの企画やシステム構築・運営などに関 し、サポートを行う。
4	伊江村社会福祉協議会	ゆんたく B O X 構築のアドバイス 地域支援センターと連携し、高齢者福祉の向上を 図る。
5	伊江村保健師	ゆんたく B O X 構築のアドバイス 地域支援センターと連携し、高齢者の健康増進と 福祉の向上を図る。
6	伊江村老人クラブ連合会	ゆんたく B O X 構築を利用者側から見たアドバ イス 高齢者支援システムの住民（高齢者）へ説明時の 調整及び協力
7	伊江島観光協会	民泊事業の推進、民泊支援システムの検証、修学 旅行生や先生などへ伊江村コミュニティプラッ トフォームの説明の調整及び協力
8	(株)アール・イー・アイ	プロジェクトマネジメント、地域支援センターの 運営、システムの企画・設計、保守・管理
9	Frontier X Frontier(株) → NANAROQ(株) (社名変更)	地域支援センターシステムの構築及び現地工事
10	(株)エミリア	ゆんたく B O X システムの構築及び現地工事

事業実施進行表

実施内容	H21										H22		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
伊江村地域交流促進協議会開催				■					■				■
伊江村地域ICT検討委員会開催				◆					◆			◆	
地域ICT連絡会議	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲			
システム構成の検討及び決定													
システム構築に係る業者選定													
システム設計													
システム開発													
システム稼働													
報告書作成													

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

- ① <http://imensyori.net/> [伊江村SNS (いめんしより)]・・・H19構築
- ② <http://www.e-shima.jp/shops/> [伊江村ECサイト (e-島屋)]・・・H20構築

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：沖縄県 伊江村

代表団体名：沖縄県 伊江村

事業名称：H21 “情報・人・産業” が織りなす癒しと安心の民泊交流モデル

＝民泊事業の活用と地域コミュニティを中心とした観光促進及び高齢者の安心安全を確保する＝

H20（繰）古今東西 ICT イチャリパチャョーデーモデル事業

1 概要

(1) 『地域支援センターシステム』

本システムは顧客管理を主目的とし、以下の機能を有する。

I: 顧客管理（顧客管理機能では、お客様の情報をデータベースに蓄積し検索可能とする。）

II: 記録管理（お客様情報に付随する記録（訪問記録や問い合わせ記録等）をお客様の情報に関連付けて管理する機能を提供。また、お客様に関連しないが重要である記録（各種文書、議事録）の管理も同時に行なう。）

(2) 『ゆんたく BOX』

平成21年度は、動作の安定性の向上、リモコン操作性の改善を行ない、対象者を高齢者以外にも拡大した。

2 運用結果

(1) 『地域支援センターシステム』

「ゆんたく BOX」利用者である高齢者宅などへの訪問の際の記録として、地域支援センターシステムを活用している。「これまでばらばらに管理されていた、顧客の対応履歴、ドキュメントが整理され瞬時に見つかるため、業務が迅速化された。」との感想が寄せられている。

(2) 『ゆんたく BOX』

『ゆんたく BOX』を利用した感想として、顔を見て話ができるのは非常に良いと概ね良好な感想が寄せられた。また、同時に ICT 事業終了後の料金体系に関しても、多くの質問が寄せられており、『ゆんたく BOX』への村民の関心の高さが見て取れる。

3 課題・改修の必要性

(1) 『地域支援センターシステム』

シンプルに必要な機能のみを表示させ、誰でも簡単に習得できるシステムになるよう、管理者機能でカスタマイズを可能とするなどして、業務の効率化を図っていきたい。

(2) 『ゆんたく BOX』

今後も、『ゆんたく BOX』のさらなる改良を続けるとともに、利用者宅への訪問サポートを継続していく。また、『テレビ会談機能』以外の機能追加も検討したい。

4 その他

※詳細設計・経過等に関しては、システム設計書補足資料 01～03 を参照。